



追加型投信 / 内外 / 債券

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

決算・分配金のお知らせ

ファンド情報提供資料
データ基準日: 2018年10月22日

平素より、「三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】」をご愛顧賜り、厚く御礼申し上げます。

当ファンドは2018年10月22日に第104期(2018年9月21日～2018年10月22日)の決算を迎え、当期の分配金(1万口当たり、税引前)を前期の70円から35円といたしましたことをご報告いたします。

今後とも引き続き、当ファンドをご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

分配金と基準価額(2018年10月22日)

分配金(1万口当たり、税引前)

35円

基準価額(1万口当たり、分配落ち後)

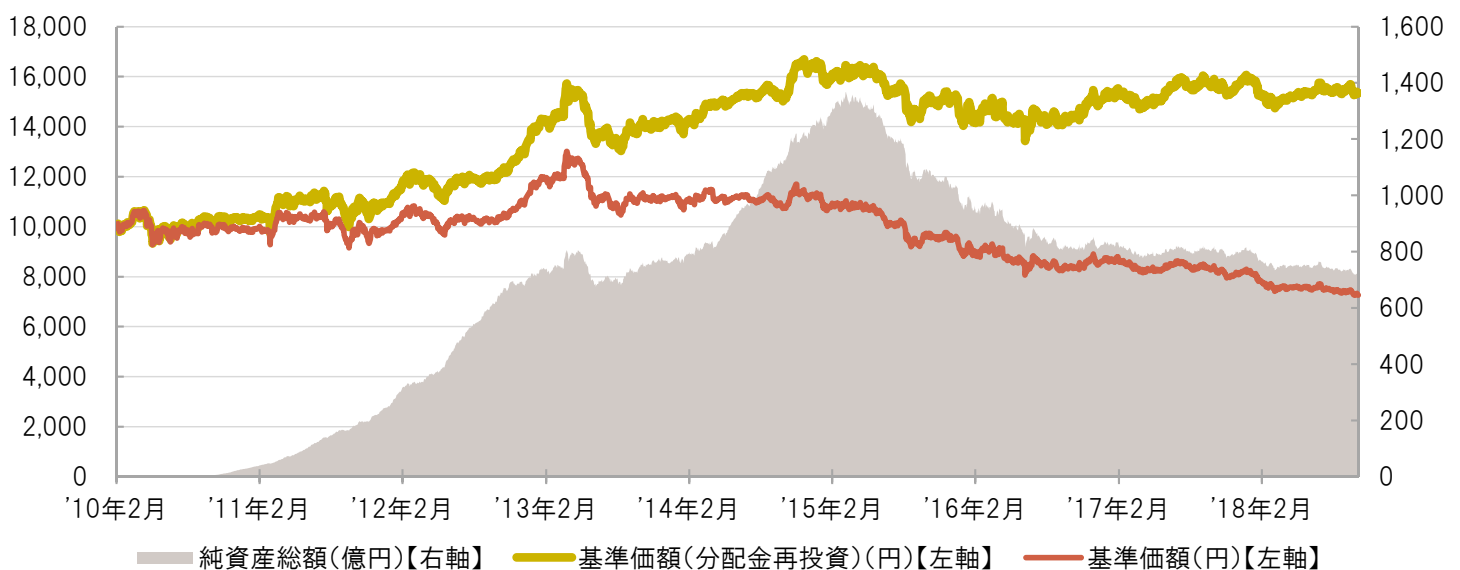
7,262円

【分配金実績(1万口当たり、税引前)】

第100期 (2018年6月)	第101期 (2018年7月)	第102期 (2018年8月)	第103期 (2018年9月)	第104期 (2018年10月)	設定来累計
70円	70円	70円	70円	35円	7,295円

・運用状況によっては、分配金額が変わる場合、あるいは分配金が支払われない場合があります。

基準価額の推移(期間:2010年2月18日(設定日)～2018年10月22日)



- ・基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮しておりません。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

Q1. なぜ分配金を引き下げたのですか。

A1. 現在の基準価額水準、市況動向に加え、分配対象額の状態等を総合的に勘案した結果、分配金の水準を引き下げ、その差額をファンドの純資産に留保することで信託財産の成長を図ることが投資家の皆さまの中長期的な利益につながると判断しました。

当ファンドは、世界主要国の債券を実質的な主要投資対象とし、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざし運用しており、2018年10月12日時点の基準価額は、7,298円となっております。

当ファンドは、下表の通り分配を継続してまいりましたが、多くの先進国の金利が長期的に低下傾向にあり、当ファンドの利子収入の減少が続いております。また、組入通貨の豪ドルが円に対して年初来で下落(円高)傾向にあり基準価額の下落要因となっております。

このような状況を踏まえ、今後も安定的な分配を継続し信託財産の成長をめざしていくためには、分配金を引き下げる必要があると判断いたしました。

なお、今回70円から35円に引き下げた分配金の差額分(35円)はファンドの純資産に留保されますので、引き下げを行わなかった場合と比べて、分配落ち後の基準価額は高くなり、信託財産の成長につながるものと考えております。

【ご参考】最近の分配対象額等の傾向(第87期～第98期)

(1万口当たり、税引前)(単位:円)

項目	計算期	第 87 期 (‘17年5月)	第 88 期 (‘17年6月)	第 89 期 (‘17年7月)	第 90 期 (‘17年8月)	第 91 期 (‘17年9月)	第 92 期 (‘17年10月)
当期分配金		70	70	70	70	70	70
	当期収益	26	25	26	19	25	17
	当期収益以外	44	45	43	50	45	52
翌期繰越分配対象額		1,574	1,529	1,486	1,436	1,391	1,340

項目	計算期	第 93 期 (‘17年11月)	第 94 期 (‘17年12月)	第 95 期 (‘18年1月)	第 96 期 (‘18年2月)	第 97 期 (‘18年3月)	第 98 期 (‘18年4月)
当期分配金		70	70	70	70	70	70
	当期収益	17	24	26	16	14	17
	当期収益以外	52	46	44	53	55	53
翌期繰越分配対象額		1,288	1,242	1,199	1,145	1,091	1,038

・「当期収益」、「当期収益以外」は小数点以下切り捨てで算出しているため、合計が「当期分配金」と一致しない場合があります。

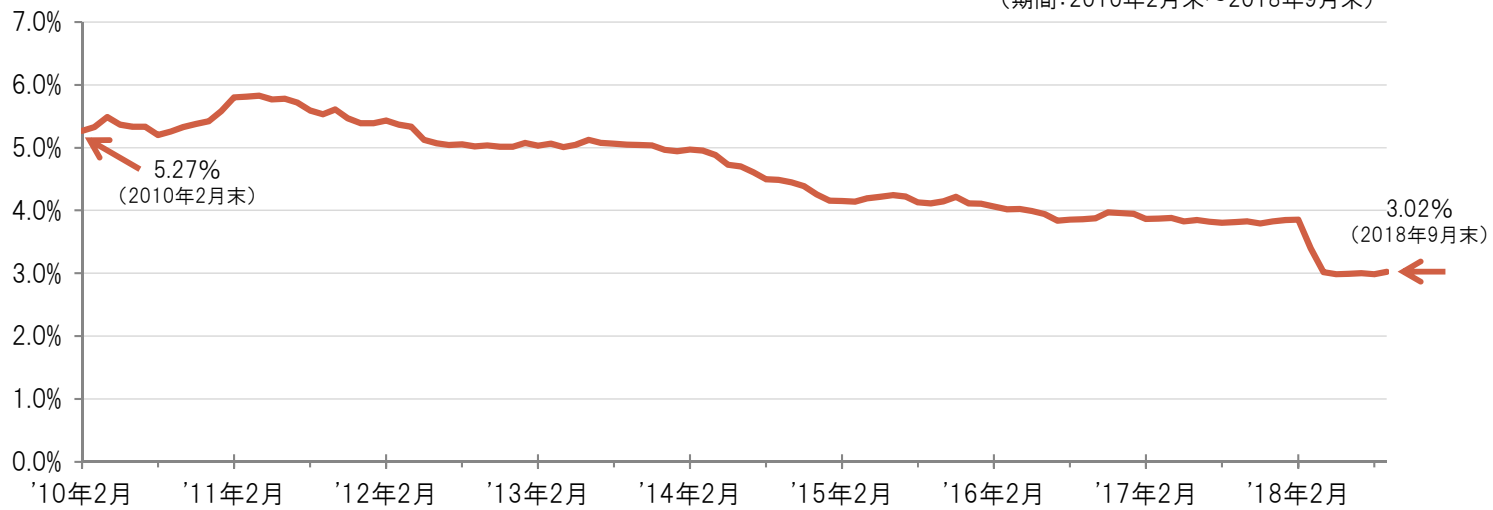
(出所)運用報告書(2017年12月版、2018年6月版)より抜粋

■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

当ファンドの実質的なポートフォリオの直接利回り*の推移

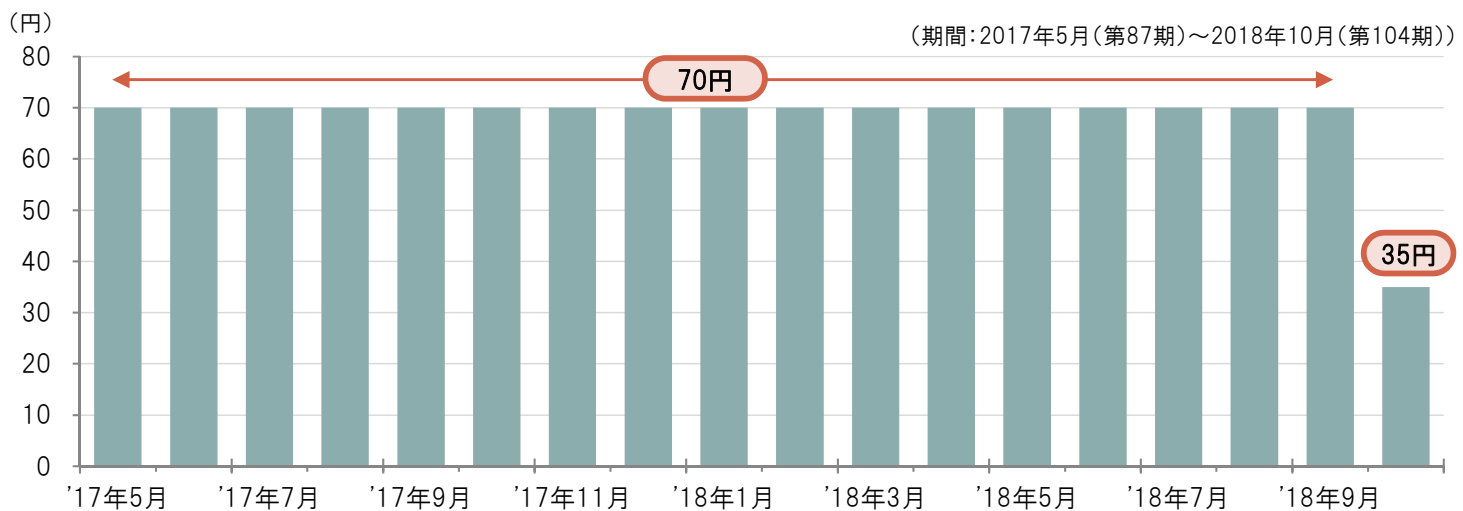
(期間:2010年2月末~2018年9月末)



* 直接利回りとは、個別債券等についての表面利率を加重平均したものです。

【ご参考】最近の分配金(1万口当たり、税引前)の推移

(期間:2017年5月(第87期)~2018年10月(第104期))



■上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

Q2. 当ファンドの設定来の運用状況について教えてください。

A2. 設定来、信用力が高く相対的に利回りの高い先進国の債券に投資し、主として利子収入を積み上げてきました。

当ファンドは、リーマンショック後、主要先進国が量的金融緩和等で景気回復への道筋を模索していた2010年2月に設定となり、世界的に金利水準が低下する環境下、相対的に高金利の先進国債券に投資してまいりました。

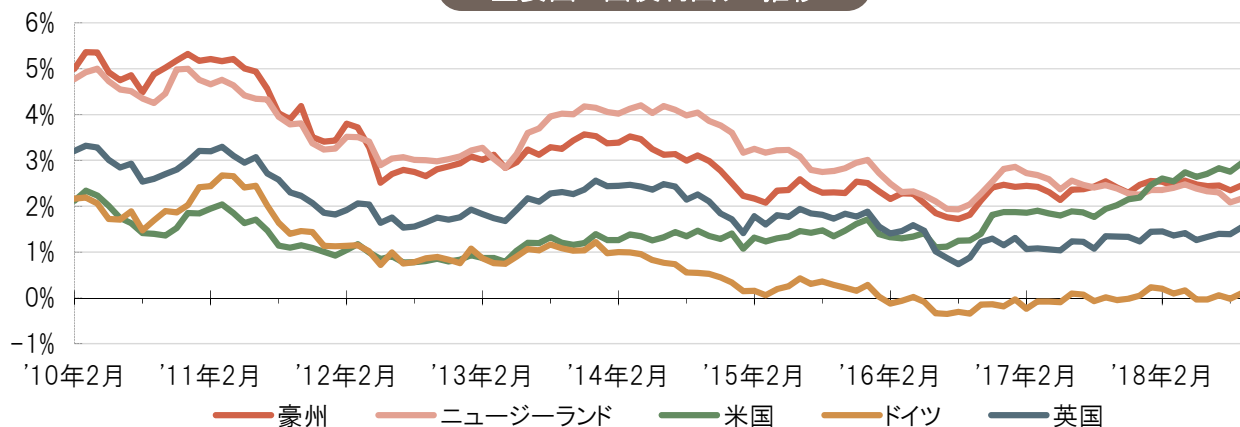
通貨配分については、設定当初構成していた豪ドルとユーロのうち、2010年3月にはユーロと英ポンドを入れ替え、また2011年1月～2月にかけて英ポンドとニュージーランドドルを入れ替えました。その後は2018年3月にニュージーランドドルと米ドルを入れ替え、2018年4月には米ドルの配分を増やすなど、必要に応じて入れ替えを行いました。

設定来からの基準価額(分配金再投資)は53.4%の上昇となっています。

(2018年10月12日現在)

主要国の国債利回りの推移

(期間:2010年2月末～2018年9月末)



(出所)Bloomberg社のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

当ファンドの通貨配分の変遷

(期間:2010年2月末～2018年9月末)



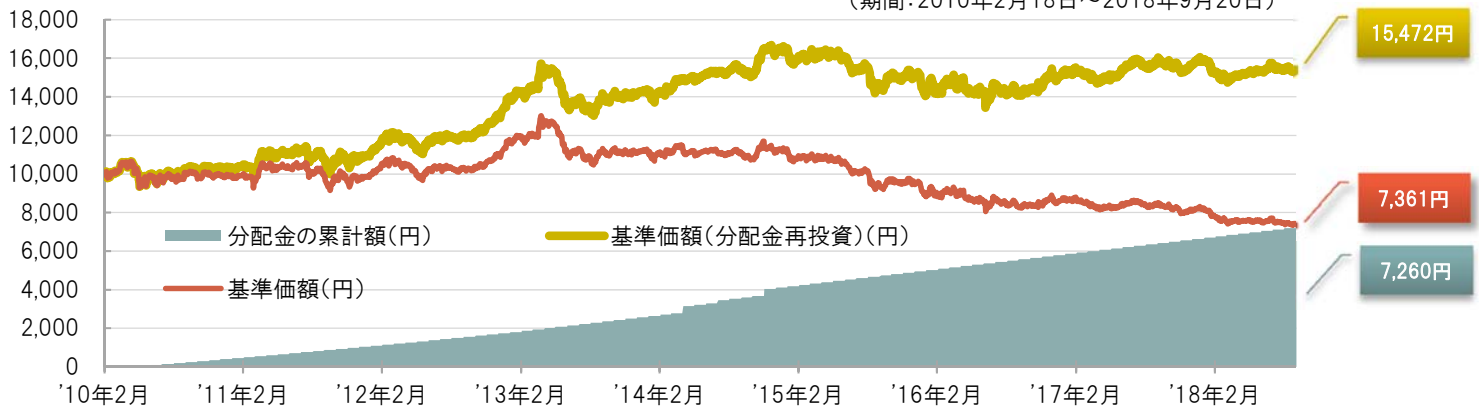
・ 上記は現物債券評価額に対する割合です。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、為替・税金・手数料等を考慮していません。■ 上記は、指数を使用しております。指数については「本資料で使用している指数について」をご参照ください。

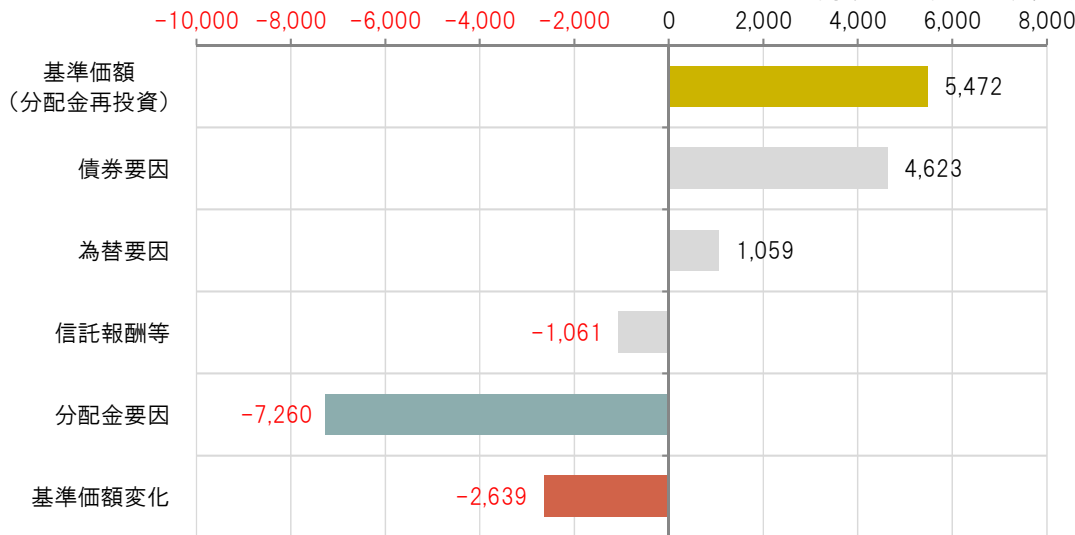
三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

基準価額の推移と騰落の要因分析

(期間:2010年2月18日~2018年9月20日)

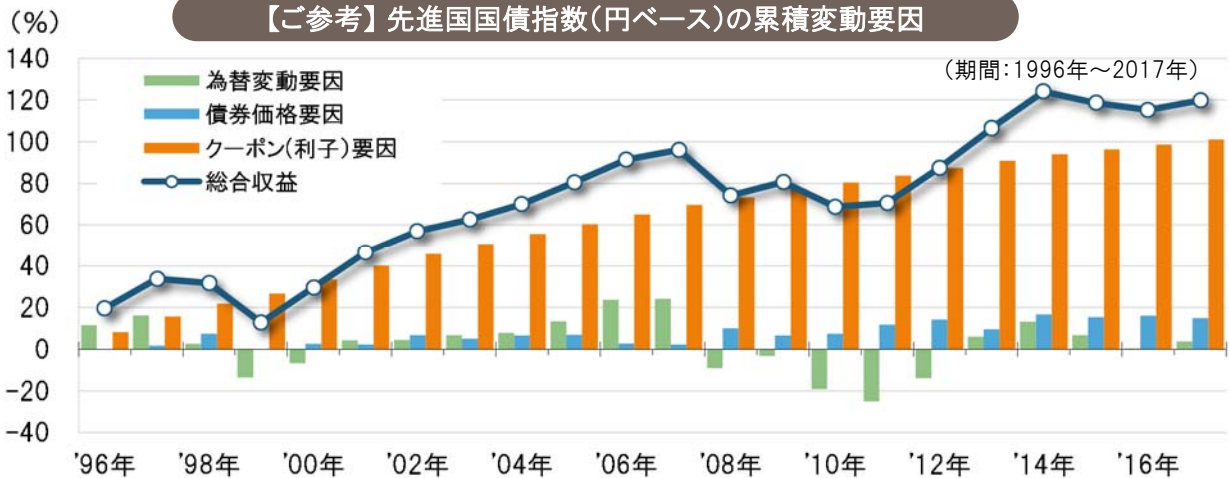


(期間:設定~第103期、累計)(円)



- ・ 基準価額、基準価額(分配金再投資)は、運用管理費用(信託報酬)控除後の値です。
- ・ 信託報酬率は、後記の「ファンドの費用」に記載しています。
- ・ 基準価額(分配金再投資)は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

【ご参考】先進国国債指数(円ベース)の累積変動要因



- ・ 上記は指数データを用いて各要因を簡便的に計算したものです。
- ・ 上記は、指数を使用しております。指数については「本資料で使用している指数について」をご参照ください。
- ・ 上記「累積の変動要因」における各要因は、それぞれの要因ごとに年次収益を累積したもので、指数の期間収益と合致しません。なお、クーポン(利子)要因は、各期推定されるクーポン(利子)要因を加算累計したもので、再投資による収益を加味していません。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

Q3. 2018年の市場環境と運用状況について教えてください。

A3. 2018年初来のグローバル債券市況は、堅調に景気拡大を続ける米国の金利上昇が注目されました。

2018年初来の市場環境と当ファンドの運用状況

【市場環境】

＜債券市況＞

米国金利は上昇した一方、豪州金利は概ね横ばいとなり、ニュージーランド金利は低下しました。

米国では、堅調な経済見通しなどを背景に、米連邦公開市場委員会(FOMC)が複数回利上げを行ったことから、金利は上昇しました。

豪州では、原油価格上昇などを背景としたインフレ期待の高まりが金利上昇要因となる一方、米国・中国間の通商問題を背景とした中国経済の減速懸念やイタリアの不透明な政治状況などが金利低下要因となり、金利は概ね横ばいとなりました。

ニュージーランドでは、景況感が低迷する中、ニュージーランド準備銀行が今後必要に応じて政策金利を引き下げの可能性を示唆したことなどから金利は低下しました。

＜為替市況＞

2018年初来の米ドルは対円でほぼ横ばいとなり、豪ドル・ニュージーランドドルは対円で下落しました。

2018年3月下旬にかけて、グローバルでの資産市場の

変動性の高まりや米国のトランプ政権の保護主義的な通商政策を背景としたリスク回避の姿勢などから、主要通貨は対円で下落しました。

その後、米国金利上昇による日本との金利差拡大などから米ドルは対円で上昇した一方、豪ドルやニュージーランドドルは、利上げ観測の後退などから対円で下落基調で推移しました。

【運用状況】

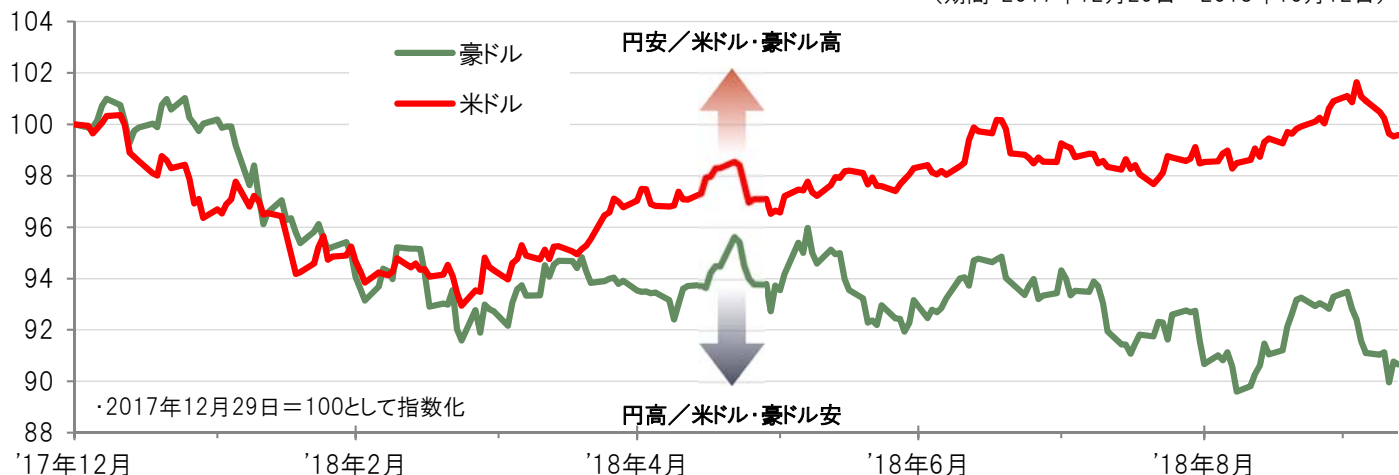
このような環境下、当ファンドでは相対的に利回りの高い国に重点的に配分するという運用方針に則り、年初から豪州とニュージーランドの2カ国で運用を行ってききましたが、2018年3月に米国を組み入れ、ニュージーランドを売却、4月に米国の比率を引き上げ、豪州の比率を引き下げることを決定しました。

上記の結果、当ファンドの基準価額(分配金再投資)は、豪ドルが円に対して軟調に推移したことを受けて下落しました。

(2018年10月12日現在)

2018年初来の米ドル、豪ドル(対円)

(期間:2017年12月29日~2018年10月12日)



(出所)Bloomberg社のデータを基に三菱UFJ国際投信作成

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。また、税金・手数料等を考慮していません。■ 計測する期間が異なれば結果も異なる事にご注意ください。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

Q4. 今後の市場見通しと運用方針について教えてください。

A4. 米国金利はもみ合い、豪州金利は低下余地を探る展開を想定しております。
為替は、円に対して米ドルは上昇、豪ドルはもみ合いを予想しております。

【今後の見通し】

＜債券市況＞

当面の米国金利はもみ合う展開、豪州金利は低下余地を探る展開を想定します。

米国では、経済が力強い速度で拡大する中、FOMCが政策金利誘導目標の更なる引き上げを目指している一方で、長期的なインフレ期待の指標(米ブレイク・イーブン・インフレ率(10年)等)が落ち着いていることやトランプ政権の通商政策などに起因する先行きの景気減速懸念も予想されるため、長期金利は当面もみ合う展開を想定します。

豪州では、国内の物価動向が豪州準備銀行(RBA)のインフレターゲット(年2-3%)の下限近辺で推移していることに加え、家計の債務比率が高水準にある中、複数の大手銀行による住宅ローン金利引き上げが住宅市場や個人消費などに与える影響が懸念されます。RBAは当面金融政策を据え置き、国内消費動向・資産価格動向などを慎重に見極めていくものと考えます。

＜為替市況＞

米国は、2018年11月に米国中間選挙という大きな不透明要因が残るものの、緩やかな政策金利引き上げが見込まれる中、米ドル/円は日米金利差拡大を受け上昇が想定されます。また、米国長期金利の上昇が企業収

益などに与える影響への懸念を背景に、株式市場などが調整し金融市場でのリスク選好度が後退する恐れに注意が必要とみています。

豪中銀は、政策金利を約2年にわたり過去最低の1.5%に維持してきましたが、今後も政策金利を据え置くことが見込まれます。為替相場はリスク回避の動きや資源価格下落リスクと、堅調な豪州経済との綱引きになりそうです。米国の中間選挙を控え、豪ドルの上値の重さは続く見込みですが、中国の景気てこ入れにより中国の株式市場・景気に底打ち感が出てくれば豪ドルは持ち直しも期待されます。

【運用方針】

引き続き、世界の主要国のうち、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。相対的に利回りが高いと判断される投資対象国を複数選定し、最も利回りが高いと判断される国に重点配分します。

なお、市場環境等を勘案し、毎月、投資国および配分比率の見直しを行い、必要に応じて入替えを行ってまいります。

(2018年10月12日現在)

■ 上記の運用方針は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。

■ 上記は、過去の実績・状況または作成時点での見通し・分析であり、将来の市場環境の変動や運用状況・成果を示唆・保証するものではありません。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

Q5. 分配金を引き下げた差額分は、どうなるのですか。**A5. 引き下げた分配金の差額分は、ファンドの純資産に留保されます。**

投資信託の分配金は預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われます。引き下げた分配金の差額分はファンドの純資産として留保され、決算日の分配落ち後基準価額に反映されます。

したがって、分配金(1万口当たり、税引前)と分配落ち後基準価額の合計は分配金の額にかかわらず同額であり、分配金の引き下げが受益者にとって不利益になるものではありません。

Q6. 事前に分配金を知ることができますか。**A6. 分配金は決算日にファンドの組入資産等の評価が確定された後、委託会社が決定します。したがって、決算日前に分配金を知ることはできません。**

分配金は決算日に委託会社(三菱UFJ国際投信)が決定し、夕方から夜にかけて委託会社のホームページ上で基準価額とともに公表します。公表までは、分配金をご確認いただくことはできません。

三菱UFJ国際投信 ホームページ:<https://www.am.mufg.jp/>

Q7. 今後、分配金を変更することはありますか。**A7. 分配金は、今後の市況動向や運用状況によって決定されます。また分配金は、支払われない場合もあります。**

当ファンドでは、収益分配方針として「原則として、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等の範囲内で、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して、分配金額を決定します。」と定めており、この方針に基づき分配金を決定しています。

なお、将来の分配金の支払いおよびその金額については、あらかじめ一定の額をお約束するものではありません。今後の市況動向や運用状況によっては、現在の分配金の水準を維持できないか、あるいは分配金が支払われない場合もあります。

【本資料で使用している指数について】**世界国債市況(=FTSE世界国債インデックス(除く日本))**

FTSE世界国債インデックス(除く日本)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数のデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。

このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託から分配金が支払われるイメージ

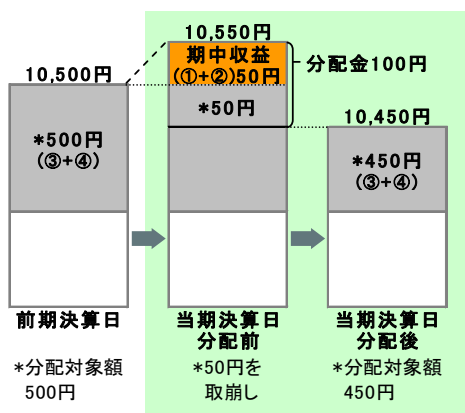


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

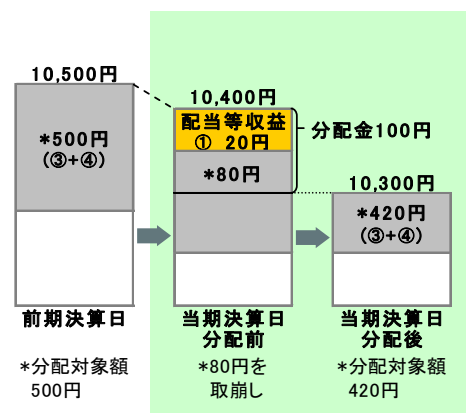
分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算日から基準価額が上昇した場合



前期決算日から基準価額が下落した場合



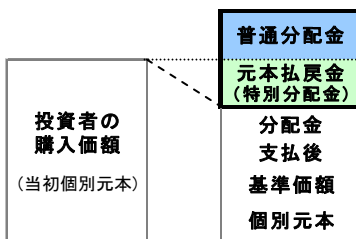
※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

分配準備積立金: 当期の①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益のうち、当期分配金として支払わなかった残りの金額をいいます。信託財産に留保され、次期以降の分配金の支払いに充当できる分配対象額となります。

収益調整金: 追加型投資信託で追加設定が行われることによって、既存の受益者への収益分配可能額が薄まらないようにするために設けられた勘定です。

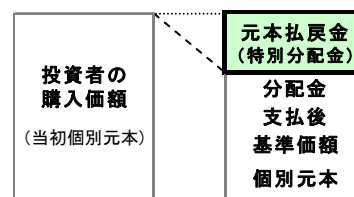
- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりりが小さかった場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金: 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金(特別分配金): 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

(注) 普通分配金に対する課税については、投資信託説明書(交付目論見書)をご参照ください。

購入時手数料に関する留意事項

お客さまにご負担いただく購入時手数料の具体例は以下の通りです。販売会社によっては金額指定、口数指定どちらかのみのお取扱いになる場合があります。くわしくは、販売会社にご確認ください。

[金額を指定して購入する場合]

購入金額に購入時手数料を加えた額が指定金額となるよう購入口数を計算します。例えば、100万円の金額指定でご購入いただく場合、100万円の中から購入時手数料(税込)をご負担いただきますので、100万円全額が当該ファンドの購入金額となるものではありません。

[口数を指定して購入する場合]

例えば、基準価額10,000円(1万口当たり)の時に100万口ご購入いただく場合、購入時手数料=(10,000円÷1万口)×100万口×手数料率(税込)となり、100万円と購入時手数料の合計額をお支払いいただくこととなります。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

ファンドの目的・特色

■ファンドの目的

世界主要国の債券を実質的な主要投資対象とし、信用力が高く、かつ、相対的に利回りが高い国の債券に投資することにより、利子収益の獲得をめざします。

■ファンドの特色

特色1 信用力の高い先進国*の債券に投資を行い、利子収益の獲得をめざします。

※ファンドにおける先進国とは、原則としてFTSE世界国債インデックスの構成国、および同指数の参考国のうち、投資対象国として適切と委託会社が判断した国を指します。ただし、将来変更されることがあります。

- ・投資対象とする債券の種類は、各国の国債、政府保証債のほか、オーストラリアの州政府債および各国通貨建ての国際機関債とします。
- ・実際の運用にあたっては、「三菱UFJ グローバル・ボンド・マザーファンド」を通じて行います。
- ・実質的な組入外貨建資産については原則として為替ヘッジを行わないため、為替相場の変動による影響を受けます。

特色2 相対的に利回りの高い国に、重点的に配分します。

特色3 毎月の安定した分配を行うことをめざします。

- ・毎月20日(休業日の場合は翌営業日)に決算を行います。
- ・債券の利子収益や売買益(評価益を含みます。)等を原資として、毎月の決算時に安定した収益分配を行うことをめざします。また、基準価額水準によっては、一時的に分配金額を増やすことがあります。
- ・分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。また、分配金額は運用実績に応じて変動します。将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。

■ファンドの仕組み

- ・運用は主に三菱UFJ グローバル・ボンド・マザーファンドへの投資を通じて、世界主要国の債券へ実質的に投資するファミリーファンド方式により行います。

市況動向および資金動向等により、上記のような運用が行えない場合があります。

投資リスク

■基準価額の変動要因

ファンドの基準価額は、組み入れている有価証券等の価格変動による影響を受けますが、これらの運用により信託財産に生じた損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。

したがって、投資者のみなさまの投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

投資信託は預貯金と異なります。

ファンドの基準価額の変動要因として、主に以下のリスクがあります。

価格変動 リスク	一般に、公社債の価格は市場金利の変動等を受けて変動するため、ファンドはその影響を受け組入公社債の価格の下落は基準価額の下落要因となります。
為替変動 リスク	組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いませんので、為替変動の影響を大きく受けます。
信用 リスク	組入有価証券等の発行者や取引先等の経営・財務状況が悪化した場合またはそれが予想された場合もしくはこれらに関する外部評価の悪化があった場合等には、当該組入有価証券等の価格が下落することやその価値がなくなること、または利払い・償還金の支払いが滞ることがあります。
流動性 リスク	有価証券等を売却あるいは取得しようとする際に、市場に十分な需要や供給がない場合や取引規制等により十分な流動性の下での取引を行えない場合または取引が不可能となる場合、市場実勢から期待される価格より不利な価格での取引となる可能性があります。

■その他の留意点

- ・ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- ・ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行います。そのため、ファンドが投資対象とするマザーファンドを共有する他のベビーファンドの追加設定・解約によってマザーファンドに売買が生じた場合などには、ファンドの基準価額に影響する場合があります。

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)【愛称:グローバル・トップ】

手続・手数料等

■お申込みメモ

購入単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額 ※基準価額は1万円当たりで表示されます。基準価額は委託会社の照会先でご確認ください。
換金単位	販売会社が定める単位／販売会社にご確認ください。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して5営業日目から販売会社においてお支払いします。
申込不可日	次のいずれかに該当する日には、購入・換金はできません。 ・毎年復活祭(Easter Day)に該当する日の前営業日および翌営業日 ・毎年クリスマス(12月25日)および翌営業日 ※具体的な日付については、委託会社のホームページ(「ファンド関連情報」内の「お申込み不可日一覧」)をご覧ください。
申込締切時間	原則として、午後3時までに販売会社が受付けたものを当日の申込分とします。
換金制限	ファンドの資金管理を円滑に行うため、大口の換金のお申込みに制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付の中止及び取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止すること、およびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取消すことがあります。また、信託金の限度額に達しない場合でも、ファンドの運用規模・運用効率等を勘案し、市況動向や資金流入の動向等に応じて、購入の申込みの受付を中止することがあります。
信託期間	無期限(2010年2月18日設定)
繰上償還	受益権の口数が10億口を下回ることとなった場合等には、信託期間を繰上げて償還となることがあります。
決算日	毎月20日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎月の決算時に分配を行います。 販売会社との契約によっては、収益分配金の再投資が可能です。
課税関係	課税上は、株式投資信託として取扱われます。個人受益者については、収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の譲渡益に対して課税されます。NISA(少額投資非課税制度)およびジュニアNISA(未成年者少額投資非課税制度)の適用対象です。税法が改正された場合等には、変更となることがあります。くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■ファンドの費用

お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料 購入価額に対して、**上限2.16%(税抜 2%)**(販売会社が定めます)
(購入される販売会社により異なります。くわしくは、販売会社にご確認ください。)

信託財産留保額 ありません。

お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用(信託報酬) 日々の純資産総額に対して、**年率1.188%(税抜 年率1.1%)**をかけた額

その他の費用・手数料 監査法人に支払われるファンドの監査費用・有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料・有価証券等を海外で保管する場合、海外の保管機関に支払われる費用・その他信託事務の処理にかかる諸費用等についてもファンドが負担します。
※上記の費用・手数料については、売買条件等により異なるため、あらかじめ金額または上限額等を記載することはできません。

※運用管理費用(信託報酬)および監査費用は、日々計上され、毎決算時または償還時にファンドから支払われます。

※上記の費用(手数料等)については、保有金額または保有期間等により異なるため、あらかじめ合計額等を記載することはできません。
なお、ファンドが負担する費用(手数料等)の支払い実績は、交付運用報告書に開示されていますのでご参照ください。

本資料のご利用にあたっての注意事項等

●本資料は、三菱UFJ国際投信が作成した資料です。投資信託をご購入の場合は、販売会社よりお渡しする最新の投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。●本資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。●本資料は信頼できると判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性等を保証するものではありません。●本資料中のグラフ・数値等は、過去の実績・状況であり、将来の市場環境等や運用成果等を示唆・保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。●投資信託は、預金等や保険契約とは異なり、預金保険機構、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。銀行等の登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の補償の対象ではありません。●投資信託は、販売会社がお申込みの取扱いを行い委託会社が運用を行います。

●委託会社(ファンドの運用の指図等)

三菱UFJ国際投信株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第404号

加入協会:一般社団法人 投資信託協会

一般社団法人 日本投資顧問業協会

<ホームページアドレス> <https://www.am.mufig.jp/>

<お客さま専用フリーダイヤル> 0120-151034

(受付時間 営業日の9:00~17:00)

●受託会社(ファンドの財産の保管・管理等)

三菱UFJ信託銀行株式会社

ご購入の際には、必ず投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

販売会社情報一覧表

ファンド名称: 三菱UFJ 先進国高金利債券ファンド(毎月決算型)

商号	登録番号等		日本証券業 協会	一般社団法人 日本 投資顧問業 協会	一般社団法人 金融先物 取引業協会	一般社団法人 第二種 金融商品 取引業協会
株式会社 ゆうちょ銀行	登録金融機関	関東財務局長(登金)第611号	○			